

⑤周辺施設等	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関（名鉄小牧駅、バスターミナル） ・新小牧市立図書館（建設予定） ・再開発ビル「ラピオ」（食品スーパー、えほん図書館、子育て広場） ・小牧小学校、小牧高等学校 ・小牧市民病院、小牧第一病院 ・マンション等 	
⑥対象地周辺の一般的なイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧市の玄関口であり、市民の生活利便性の向上に寄与する都市機能が集積した中心市街地 	
⑦その他 （上記項目以外の情報、特徴、留意すべきこと等）	<ul style="list-style-type: none"> ・駅西駅前広場は、新小牧市立図書館の供用開始（H33.4ころを予定）までに整備を完了する予定。 ・駅東公園を含む駅東の整備は、新交通システム桃花台線のインフラ撤去後に着手する予定（※インフラ撤去時期は未定） 	
5. 対象施設の概要		
5-1. 建物	既存	整備後(予定)
①施設名称	/	/
②施設の延床面積		
③建物の構成(構造、階数)		
④主な施設の内容、導入機能		
⑤運営状況 （運営主体、事業手法等）		
⑥その他 （上記項目以外の情報、特徴、留意すべきこと等）		
5-2. インフラ系 （上下水道、道路等）	既存	整備後(予定)
①施設名称	上下水道、道路	上下水道、道路
②規模、能力等	隣接道路に上下水道管あり	隣接道路に上下水道管あり
③運営状況 （運営主体、事業手法等）	/	/
④その他 （上記項目以外の情報、特徴、留意すべきこと等）		
6. 事業環境		
①人口、高齢化率	<ul style="list-style-type: none"> ・人口及び高齢化率（H27 国勢調査） 人口：149,462人、高齢化率：23.5% ・小牧駅の利用状況 名鉄小牧駅の乗降客数(H28年度)：3,832,314人(10,499人/日) 名鉄バス利用者数(H28年度)：1,408,712人(3,859人/日) ピーチ・こまき巡回バス利用者数(H28.9OD調査)：936人/日 	
②対象地周辺の人口構成	<ul style="list-style-type: none"> ・年代別人口構成（H27 国勢調査）※年齢不詳除外 	

	<p>年少：20,267人、生産年齢：89,973人、老年：33,816人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼夜間人口構成比（H23:第5回中京都市圏パーソナルリサーチ調査） <p>昼間：165,196人、夜間：139,658人、昼間比率118%</p>
③市民意見等	<p>《小牧駅周辺整備に関するアンケート調査の自由意見（H27.3）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小牧駅は「小牧の顔」のため、魅力と活気にあふれる駅前となる整備を望む声が数多く寄せられている。 ・特に、駅利用者などの利便性を高めるため、飲食店を求める意見が非常に多い。 ・駅東公園については、多世代が憩える緑あふれる空間として整備することが望まれている。 <p>《第6次小牧市総合計画新基本計画の推進に係る市民意識調査の自由意見（H29.3）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小牧駅周辺に待ち合わせができるカフェがほしい。名古屋から来る友人と待ち合わせできるわかりやすいカフェ（スタバ、コメダ、ミスド、ドトール等）がない。（女性 30歳代） ・小牧駅内か近郊に人と待ち合わせの喫茶店等があると良い（女性 65～69歳） ・駅前周辺の開発に期待しています。飲食店、カフェ、書店、図書館など、複合施設でもよいので、あったらもっと駅周辺が明るくなると思う。今は駅近くで過ごせるような場所がなく、時間をつぶすのに不便。夜間はさらに人も少なく、何となくイメージが暗い。（女性 30歳代）
7. 事業関連	
①現状及び課題	<p>本市では今後、人口減少及び厳しい財政状況が見込まれる中、持続可能な都市経営を実現するため、平成29年3月に小牧市立地適正化計画を策定し、「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を目指すこととしている。</p> <p>とりわけ、中心市街地である小牧駅を中心としたエリアについては、市民全体の生活利便性の向上に寄与するような「広域的な都市機能」の誘導・集積を目指すとともに、利便性の高い公共交通ネットワークの構築を図る「中心拠点」に位置づけています。</p> <p>この計画の下、小牧駅西側において、「広域的な都市機能」として新小牧市立図書館の整備、再開発ビル「ラピオ」に（仮称）こども未来館の整備が予定されている。</p> <p>また、これらの公共施設整備に併せて、小牧駅前広場等の整備を行い、公共交通機関の利便性向上を図るとともに、中心市街地のにぎわいの衰退・まちの魅力低下という課題解決を図るため、駅前の市有地を有効活用しながら、民間活力による「新たなにぎわいの創出」について検討したい。</p>
②目的、考え方・基本方針	<p>《駅西駅前広場》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前の好立地を活かし、新たなにぎわい空間を創出するため、人々が“集い・滞在し・交流できる空間”として、オープンな広場スペースを確保する。広場スペースについては、オープンカフェ、産直市場、マルシェ、イベント開催、Wi-Fi環境など、一部について民間活力の有効利用を検討。 <p>《駅東公園》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場など、人々が憩うことができる居心地の良いやすらぎのある空間整備を行う。 ・整備手法については、公園の質の向上、公園利用者の利便の向

